

競技注意事項

この大会は、2016年(一財)日本陸上競技連盟競技規則と本大会要項ならびに申し合わせ事項により実施する。

1. 招集

- (1) 競技者は、出場種目の招集開始時刻がきたら招集所にて、自分のナンバーカードを競技者係に示し、出場する種目・組・レーン(試技順)を告げて確認を受ける。
混成競技者も同様に、競技者待機所において競技者係から点呼を受ける。
- (2) 競技者招集所の位置は、本競技場第2ゲート(フィニッシュ付近)の外側の道立体育センター前にある。
- (3) 招集はすべて競技者係の指示に従う。招集開始時刻・終了時刻は次の通りとする。

		予選	準決勝・決勝	
トラック競技	競技開始時刻	35分前～20分前	25分前～15分前	
フィールド競技(走高跳)	競技開始時刻	55分前～40分前	40分前～30分前	
(棒高跳)	競技開始時刻	90分前～75分前	75分前～65分前	
(走幅跳)	競技開始時刻	55分前～40分前	40分前～30分前	
(砲丸投)	競技開始時刻	50分前～35分前	35分前～25分前	
四種競技	トラック種目	25分前～15分前	フィールド種目	40分前～30分前

- (4) 招集に遅れた者の出場は認めない。
- (5) 招集完了後、招集待機所で待機し、勝手にその場を離れてはならない。移動は、競技者係の指示に従う。
- (6) 2つの競技に出場する競技者は、該当競技の招集開始時刻10分前までに所定の用紙に記入し、競技者係に連絡し、係の指示に従って行動する。(2種目同時出場届は競技者係に備えてある。)
- (7) 2種目同時に出場する競技者は、当該競技審判主任の判断により、フィールド競技について試技順を変更することができる。試技順を変更しても試技時間に間に合わなかった場合は、「パス扱い」となる。走高跳・棒高跳においては、事前に申告すれば「無効試技扱い」とみなす。
- (8) リレーのオーダー用紙は、各ラウンドの第1組目の招集完了時刻の1時間前までに競技者係に提出する。
- (9) ナンバーカードは、縫い付けるか安全ピンで確実に止めること。(走高跳・棒高跳・走幅跳に出場する競技者は胸部または背部のいずれか一方でよい)
- (10) トラック競技の出場者は招集の際、競技者係より腰ナンバーカードを借り受け、ランニングパンツの右腰やや後方に取り付ける。(フィニッシュ後は、必ず回収係の生徒役員へ手渡すこと)

2. レーン・競技順

- (1) プログラム記載の上から下への番号順とする。ただし、四種競技は、種目ごとに試技順が違うのでプログラムで確認すること。
- (2) トラック競技の準決勝・決勝のレーン順及びフィールド競技決勝の試技順は番組編成員で公平に抽選し、記録掲示板に掲示する。

3. トラック競技

- (1) タイムにより次のラウンドの出場者を決める際に同記録者があるときは、競技規則第167条②を適用する。
- (2) 不正スタートをした競技者は1回目で失格とする。ただし、男女四種競技においては、各レースでの不正スタートは1回のみとし、その後に不正スタートをした競技者は、すべて失格とする。
- (3) 写真判定のため、腰ナンバーカードを使用するがリレーの場合は第4走者のみとする。
- (4) 1500m決勝は18名、3000m決勝は24名で行う。
- (5) 3000mは、第1グループを2/3、残り1/3を第2グループに分けてスタートする。
- (6) 3000mについては胸部のナンバーカードをレーンナンバーカードに付け替える。

4. フィールド競技

(1) 走高跳・棒高跳

① 走高跳は、男子・女子ともに予選・決勝とし、バーの上げ方は次の通りとする。

【予選】

男子 競技開始 1m55-1m60-1m65-1m70-1m73-1m76-1m79-1m82-1m85 (予選通過記録)

女子 競技開始 1m35-1m40-1m45-1m48-1m51-1m54-1m57-1m60 (予選通過記録)

【決勝】 ※最後の一人になるまでは下記の通り。

男子 競技開始 1m65-1m70-1m73 以降 3 cm きざみとする。

女子 競技開始 1m45-1m48-1m51 以降 3 cm きざみとする。

② 棒高跳は予選・決勝とし、バーの上げ方は次の通りとする。

【予選】 競技開始 2m60 から 20 cm きざみ 3m80 から 10 cm きざみ 4m00 (予選通過記録)

【決勝】 競技開始 3m10 最後の一人になるまでは 10 cm きざみとする。

③ 第 1 位が 2 名以上の場合、順位決定のバーの上げ下げは、走高跳は 2 cm・棒高跳は 5 cm 単位とする。

(2) 走幅跳・砲丸投

① 予選通過記録は、下記の通りとする。

男子 走幅跳 6m55 男子 砲丸投 13m00

女子 走幅跳 5m45 女子 砲丸投 12m50

(3) 混成競技

走高跳のバーの上げ方は、A・Bピットともに次の通りとする。

男子 試技開始 1m20 から 5 cm きざみ 1m50 以降 3 cm きざみとする。

女子 試技開始 1m05 から 5 cm きざみ 1m25 以降 3 cm きざみとする。

(4) 助力

競技規則第 144 条 4 項(e)は適用せず、助力とみなす。

助力については、競技場内での助力は禁止とするが、コーチング席(エリア)や観客席からの助言については競技運営や他の競技者の競技の妨げにならない範囲で認める。また、選手はミュージックプレーヤー・携帯電話・その他類似の機器を競技場内に持ち込むことはできない。

5. 競技について

- (1) 競技者・監督といえども、その競技に出場する者以外は競技場内に入ることはできない。
- (2) 短距離走では、競技者の安全のためフィニッシュライン通過後も自分のレーンに沿って走り、前後左右の安全を確認してからレーンを出ること。
- (3) リレー競技のマーカ―は主催者側で用意し、使用は 1 カ所とする。使用したマーカ―は、そのチームで処理する。
- (4) リレーチームの編成メンバーについては、競技規則第 170 条⑩を適用する。
- (5) 棒高跳の競技者は、自分の希望する支柱の位置を練習の時に担当審判員に申し出ること。
- (6) 抗議は競技規則第 146 条に従って定められた時間内に、各地区専門委員長(またはその代理の者)が総務員を通じて口頭で審判長に申し出る。さらにこの裁定に不服の場合は、預託金(1 万円)を添え、総務員を通じて文書で申し出る。なお、ジュリーの裁定が最終決定となる。
- (7) クラブチーム名の入ったユニフォーム着用は原則として認めない。もし着用する場合はクラブチーム名をテープで隠すなどの処置をすること。

6. 競技用具について

- (1) 競技に使用する用器具は、棒高跳のポール以外全て主催者が準備したものを使用しなければならない。
- (2) 個人使用のポールは、検定を受け合格したもののみ使用できる。ポールの検定は棒高跳ピットで跳躍審判員が行う。

7. 練習について

別紙の公開練習要領に従い、注意事項を遵守し安全に留意し練習すること。

8. 競技用スパイクについて

スパイクピンは、全天候用を使用すること。長さは9 mm以内とする。ただし、走高跳は12 mm以内とする。
なお、スパイクピンの数は11本以内とする。

9. その他

- (1) 8位までの入賞者に賞状を授与する。3位まではメダルを授与する。リレー優勝校には優勝杯を授与する。
- (2) 表彰は各種目の決勝終了後ただちに行うので、入賞者は担当役員の指示に従い表彰席に待機する。
- (3) スタート前に脱いだ衣類の運搬は行わない。あらかじめ用意された袋に入れ指示された所定の場所に置き、各校（監督）の責任において引き取ること。
- (4) 正面スタンド前（本部席前）は通行禁止とする。また、誘導路での応援は禁止とする。
- (5) 応援横幕・のぼり旗などの設置は、自校テントの範囲内とする。
- (6) 競技進行上、競技開始時刻に多少の変更もあり得るので、アナウンスを聞き漏らさないよう注意すること。
- (7) 棄権届（用紙は競技者係に備えてある）は、競技開始90分前までに競技者係へ、プログラム正誤表（袋の中にある）は出場種目のある日の午前8時30分まで（25日は11:30）に学校受付へそれぞれ提出すること。
- (8) リレー競技については、上下ともその学校の同一ユニフォームを着用すること。
- (9) 携帯電話、その他類似の機器を競技場内で所持及び使用することを禁止する。

10. テントの設置について

- (1) テントを張る場合は、各自責任を持って取り扱うこと。
- (2) 大会中テントを設置したまま置いていくことは可とするが、必ずたたんでいくこと。強風などにより撤去をお願いすることもあるので、アナウンスの指示に従うこと。
- (3) メインスタンド横へのテント設置は禁止する。
- (4) 地区中体連ごとに割当をしているのでその範囲内に設営すること。不足の場合は、武道館裏芝生「自由広場」の許可された区画に設営することも可とする。それ以外の公園内の場所は一切認めない。
- (5) 大会前日の設置は12時00分から。大会当日は開門時からとする。